

学校支援を積極的に進めよう

～子どもたちを支え、育み、共に成長しよう～

みよし市立三好丘小学校PTA

1 学区及び学校の概要

本地区は、昭和54年に名古屋鉄道豊田線の開通に伴い開発が始まり、平成2年4月に三好丘行政区と三好丘旭行政区の二つの校区から成る三好丘小学校が開校した。多いときには1,200人を超える児童が在籍していた。緑丘小学校（平成9年4月）、黒笹小学校（平成19年4月）への分離を経て、現在は約450人の児童が在籍している。多くが家を新築したり、マンションを購入したりして転入してきた家庭である。諸外国を含むさまざまな地域から転入してきた住民もあり、協力し合っって地区の行事を新たに立ち上げたりするなどしてコミュニティづくりを進めている活気のある地域である。

2 研究のねらい

校訓「よく学ぶ子、助け合う子、たくましい子」を育成するために、今年度は、昨年度の学校評議員と地域コーディネータにより学校運営協議会を発足させ、地域や保護者と願いを共有しながら学校運営を進めてきている。本校PTAは、総務部と学校委員で構成されており、学校委員は、3部会（教育環境部、文化部、広報部）に分かれ、それぞれが年間計画に基づいて活動している。近年、外国にルーツをもつ家庭が増え、今年度は外国籍児童が約40名在籍する。本校は、校内に日本語初期指導教室として「おかよし教室」があり、日本語指導が充実していることも特色の一つである。様々な家庭事情があることを考慮しつつ、PTA活動を通して、学校と保護者をつなぎ、子供たちの健全な育成に寄与したい。

3 研究の仮説

多くの保護者が、学校の行事に関わったり、校内の教育環境を整えたりする活動を進めることで、保護者と教員との良好な人間関係を築くことができ、児童の健全育成につながるであろう。

4 研究の方法

- (1) 活動内容やPRの仕方を工夫し、魅力あるPTA活動を展開し、学校と共同で行事を営む。
- (2) 活動方法を工夫し、より多くの方の協力を得るような環境整備に取り組む。

5 研究の実践

(1) 「スポーツリズムトレーニング体験会」

保護者と教師の交流の場の一つとして、PTAの文化講座を、今年度は現職研修の一環として計画した。夏休み中の7月26日に、スポーツインストラクターを講師に招き、「スポーツリズムトレーニング体験会」を実施した。教員24名、保護者12名、児童3名の39名の参加があった。



【スポーツリズムトレーニング体験会】

実施後の参加者アンケートを見ると、「楽しく運動できました」等、賛同の声をいただいた。会を運営したPTA総務部の役員からは、「自分たちのしたことがこれだけみなさんに喜んでもらえたことで、PTA活動に自信をもつことができた」「これからも、子どもたち、先生たち、親たちのためになることを自分たちで決めて自分たちがやっているのだという意識を浸透させ、プライドを持ってPTA活動に取り組めるようにしていきたい」というような、一人一人の意識改革を目指したいという声もあがった。

(2) 「かけっこ教室」

11月11日には、オリンピック選手を講師として招き、6年生の全児童85名を対象に、速く長く走るノウハウを教えてもらう「かけっこ」教室を実施した。保護者にも参観を呼びかけ、授業参観とすることで保護者の関心も喚起し、親子の会話を増やすことも目的とした。校内マラソン大会の前に実施し、子供たちの意欲を喚起し、体力向上につなげたいと考え、実施日を11月とした。オリンピック選手の走る姿を間近で見たり、一緒に走る体験をしたり、努力を聞いたりすることで、子供たちの心に残るものとなることを期待した。保護者により関心をもってもらえるように、PTA会長から広報部役員にデザインを依頼し、カラーのチラシを作成した。また、アンケートをWEB入力とし、配布、集計等の手間を省くよう工夫した。

(3) 子どもリサイクル活動

リサイクル活動を「子どもリサイクル活動」として、年間7回、児童が登校時にリサイクル品を持参し、教育環境部の役員が昇降口で回収している。取り組む中で、リサイクル品として受入不可の物が数多く混入していることが課題としてあがってきた。各家庭でリサイクル品を集め、持たせてくれているが、保護者の中でも、ルールが理解できていないのではないかと考え、教育環境部の役員は、回収受入可／不可の代表的な物を一覧として作成することにした。一覧を作成するにあたり、子ども達にもわかりやすいようにイラストをつけ、保護者向けの外国語(ポルトガル語と英語)を併記した。プリントを配布以降は受入不可品の混入はドリンク缶キャップなど数点に激減し、効果が見られた。

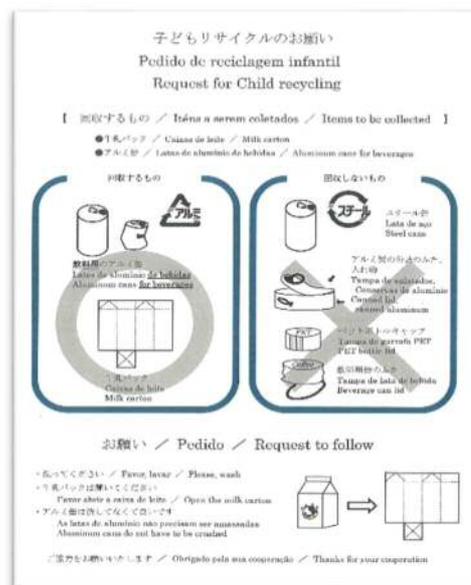
(4) 学校行事の支援

運動会では、前日にテント設営準備、当日は保護者受付、テント撤収の片づけを手伝っていただいた。テント撤収では、PTA会長の呼びかけで、役員以外の保護者も集まっていた。

マラソン大会時の豚汁の配布では、ハラル食やアレルギーの子への対応にも配慮した味噌汁も準備し、どの子も食べられるようにした。



【子どもリサイクル活動】



【役員作成のお願いの文書】

6 考察

リサイクル活動の案内文書に英語とポルトガル語訳をつけるなど、多様な文化への対応をした。例年通りでなく、今必要とされていることを探り、少しでも多くの児童・保護者への支援を考え、動くことができた。子どもたちや保護者のためになったと役員が感じることができた。PTA行事の在り方を工夫する中で、PTA役員が主体的に考え、アイデアを出す、会の運営を行うことができ、PTA活動が楽しい、役に立っていると役員がやりがいを感じることもできた。

7 成果と課題

活動内容を工夫しながら取り組むことで、参加者を増やし、役員のやりがいを高めることもできた。行事の準備や環境整備など、役員だけでなく、ボランティアを募集し、人を集めることで、一人一人の負担が減り、どの保護者にも参加しやすいPTA活動になるのではないかと前向きな意見も出てきた。